

多職種チームのメンバーとしての自己評価

埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科 國澤尚子

連携そのものはこれまでも行われてきましたが、その現象に意味を見出し、よりよい成果を創出する多職種でのチーム活動をするために IPW (Interprofessional Work : 専門職連携実践) が意識されるようになってきました。そして、IPE (Interprofessional Education : 専門職連携教育) は IPW の人材育成を目指した教育であり、埼玉県立大学では IPW もまた専門性の一部として、IPE 科目を構築しています。また、専門職を対象として「IPW 総合課程」「ファシリテーション研修」「多職種連携基礎研修」なども実施しています。

IPW は利用者・家族のよりよい暮らしのために、利用者・家族とともに実践される活動であり、専門職はお互いから学び合い、お互いのことをともに学びながらケアの質を高めることが期待されていますが、評価方法が確立しているわけではないため、現場では評価までは行ってはいないという現状があります。そこで、今回は IPW のために必要な能力という視点から評価する方法として開発した IPW 自己評価尺度をご紹介します。この自己評価尺度は、「多職種と協働する力」「チームを動かす力」として、コミュニケーション、パートナーシップ、リフレクション、リーダーシップ、ファシリテーション、マネジメント、コーディネーションなどを評価するものです。現場の方々のご自身の経験を振り返り、職場の IPW がどのように成り立っているか、今後意識することによって職場の IPW をどのように変化させることができるかを考えることそのものが IPE であり、専門職としての満足度を高めることにつながります。

また、IPW に影響を与える職種間のヒエラルキー、集団、社会的アイデンティティ、チーム形成プロセスなどについて解説します。お互いの力をチームに力にしていくよりよいチームワークについて考えるきっかけにいただければと思います。

略歴

埼玉大学教育学部、東京女子医科大学看護短期大学を卒業後、看護師として病院に勤務。その後、東京女子医科大学看護短期大学、三重県立看護大学、埼玉県立大学（看護学科、健康開発学科）、医療生協さいたま地域社会と健康研究所を経て、埼玉県立大学（看護学科）へ戻り現職。教育学士、修士（カウンセリング）、博士（工学）を取得。